

松山南高したじき班 知事賞

変形時音の原理追究

学生科学賞 県審査

最優秀4点 中央審査に

第69回日本学生科学賞（読売新聞社主催、旭化成協賛）の県審査会が17日、松山市内であり、入賞作16点が決まった。最優秀賞には、県立松山南高・したじき班の「下敷変形時における音の発生原理」（県知事賞）など4点が選ばれ、県代表として中央審査に進む。

県内の中高中生から22点の応募があり、県総合教育センターの渡辺弘安所長、愛媛大の隅田学教授ら10人が提出作品について、▽科学的思考▽創造性▽発展性がみられるか—などの観点で審査した。

松山南高したじき班は、下敷きを曲げたときに音が鳴る現象に着目。発生原理を探り、下敷きの変形の様子と発生する音の振動数との関係を調べた。映像と音声を解析すると、音は下敷きが元に戻ろうとする力から生まれる振動が原因で発生し、下敷きに生じる力が大きいほど振動数が増えることを立証した。

隅田教授は「今年は昨年からの継続研究や中学生からの応募があり、レベルの高い作品がそろった」と総括。特に評価が高かった作品については、「ユニークな視点から問いを見いだし、粘り強く研究に取り組

んだ跡がみられた。実験方法を工夫しながら、論理的に分析・考察し、科学や社会の発展への貢献を期待させるものだった」と述べた。他の入賞作は次の通り。

◇最優秀賞◇

西条高・SSH輝安鉱班「輝安鉱の水熱合成と結晶成長（県議会議員賞）▽三瓶中・三好創一郎（もも）三瓶港に津波が来た（県教育賞）▽松山南高・上村芽生「海水中での銀ナノ粒子の凝集評価」（県市町教育委員会連合会長賞）

◇優秀賞◇

新居浜東高・化学同好会「銅鏡反応への挑戦」▽今治南高・チーム今南2025「球体と平面との衝突についての研究」▽松山聖陵高・上申将輝「居住空間における音の広がりに関する研究」▽松山中央高・チームメタカ「ミニメタカが直面している脅威」▽宇和島東高・吊り照明班「垂直差し込み式剛体振り子の地震動に対する応答」▽宇和島東高・Catch and so「体育館の天井のボールの回収」

◇佳作◇

松山南高・飛翔班「チヨウの羽ばたきと身体的特徴の関係性」▽松山南高・レイオン班「再生繊維の強度を高める研究」▽松山南高・プラナリア班「ナミウスミシの頭部断片からの再生」▽済美平成中等教育学校・自然科学部「粒状ポリスチレン混合コンクリートの特性について」▽長浜高・天野泰太「サンゴ2つの外敵認識」▽宇和島東高・Naked Barley「はたか麦の栽培」



応募作品を評価する審査員（松山市で）